ツール・ド・のと2日目

里山里海 駆ける

「第25回ツール・ド・のと400～能登半島一周サバイバル・サイクル2013～」（同実行委、北國新聞社主催、石川県自転車競技連盟共催）は2日目の15日、輪島市から七尾市能登島を目指す157・4㌔で行われた。雨にも負けず、参加者624人は世界農業遺産「能登の里山里海」の風光明媚な景観の中を疾走した。

奥能登の絶景を背にペダルをこぐ参加者＝珠洲市内

雨にも負けず 輪島から能登島へ

2日目の輪島港マリンタウンから七尾市能登島マリンパーク海族公園までのコースは3日間で最長距離。406㌔の全行程を走破するチャンピオンコースに405人、1日コースに219人が出場した。

マリンタウンを出発した参加者は千枚田や見附島、揚げ浜式塩田などの景勝地を横目に見ながら、山間部の峠が連続する難所にも挑んだ。各地で秋祭りのにぎわいと遭遇し、祭りの若衆や沿道の声援を受けてゴールの能登島を目指した。

ツール・ド・のと400実行委は台風18号の接近に伴い、16日の最終日について、同日午前8時までに中止かコースを変更して実施するかを判断する。変更する場合、安全面を考慮して海沿いを通らない経路となる。

秋祭りのにぎわいの中を駆け抜ける参加者＝珠洲市宝立町

裏方で支え25年 大会に深い愛着

元競輪選手・成田さん

「カッツリーズ サイクル＆デザイン」（内灘町）代表の成田加津利さん㊺が裏方として第1回から大会を支え続けている。元競輪選手の知識と経験を生かして黒子に徹し、四半世紀を迎えた大会により愛着を深めている。

成田さんは金沢高時代にインターハイ、国体で優勝し、実業団を経て12年間プロ競輪選手として活躍した。アテネ五輪ロードレース日本代表の唐見実世子さんを育てた指導者としての顔も持つ。

ツール・ド・のとには、第1回大会から実行委メンバーとして参加。伴走して大会運営を支援するサポートカーを導入したほか、大会前日に出場者に技術指導などを行うクリニックを発案した。

大会が近づくと「ソワソワする」という成田さんは「国内の自転車関係者から尊敬を集めるツール・ド・のとは日本を代表する大会。これからも協力したい」と話した。

地元食材で豚汁

◇…ゴール地点の七尾市能登島マリンパーク海族公園では、能登島の女性ボランティアグループ「すみれ会」のメンバーが作った大鍋の豚汁が振る舞われた。直径約2㍍の大鍋に800食分が用意され、2日目を終えた出場者は能登島ポークやサツマイモなど地元食材をふんだんに使った豚汁を味わった。

60代夫婦も参加

◇…1日コースに夫婦で初参加した車岡務さん(63)と美恵子さん(62)＝金沢市京町＝はそろってゴールに到着し、達成感に満ちた顔を見せた。レース中は並んで走ったり、顔を見合ったりして夫婦の絆を確かめ合った2人。「お互いに信頼している」と声をそろえ、「孫と一緒に参加できるまで頑張りたい」と笑顔で語った。

台湾に日本語との混合語

富大教授確認 先住民族が使用

岩田金大教授と交流会に参加

富大人文学部の中井精一教授は15日までに、台湾の先住民族が使う言語に民族語と日本語が混じった混合言語があり、日本とゆかりの深い地域で今でも使用例が多いことを確認した。

中井教授は先月、金大人間社会学域人文学類の岩田礼教授らとともに台北市の台湾師範大で開かれた「日台言語地理学学術交流会」に参加した。

交流会後、中井教授は台湾の先住民族であるタイヤル族の60、70代女性2人に聞き取り調査を実施。女性は、日本統治時代の名残で80代以上の人は日本語を使う一方で、40、50代を中心とする世代では日本語と民族語の混合言語が広く使われていると語った。中には「Anta dare no Layn?（あんた 誰の 子供？）」「itta（行った）」など日本語の影響を色濃く受けている表現が見られた。

後期展で装い新た

富山県いけ花作家協会展

高岡

高岡市の大和高岡店で開かれている第20回富山県いけ花作家協会展（同協会、北國・富山新聞社主催）は15日、後期展が始まった。多くの家族連れらが訪れ、装いを新たにした初秋の風情を感じ取った。

後期展には草月流、古流柏葉会、嵯峨御流、上床流、遠州秀月流と池坊の作家が、大作9点、中作6点、小作42点を出品した。大きく曲がった木の枝を効果的に使った作品など自然の美しさを生かした力作が展示された。

いけ花作品に見入る来場者＝高岡市の大和高岡店

後期展は17日まで。入場料は500円（中学生以下無料）。

節目祝い祝賀会

富山県いけ花作家協会展の20回開催を記念した祝賀会が大和高岡店で開かれ、会員ら約70人が節目を祝い、今後の研鑽を誓い合った。協会展に協賛出品している石川県いけ花文化協会への感謝状が生駒松崩専務理事に、共作に協力している金沢美大同窓会富山支部への感謝状が尾山章文部長に贈られた。

津波で送迎バスの園児死亡あす判決

仙台地裁

東日本大震災の津波で送迎バスが流され、死亡した私立日和幼稚園（宮城県石巻市）の園児4人の遺族が「安全配慮を怠った」として、園側に約2億6700万円の損害賠償を求めた訴訟の判決が17日、仙台地裁（斉木教朗裁判長）である。津波の犠牲者遺族が避難指示や安全管理をめぐり、管理者側に賠償を求めた訴訟での判決は初めて。

争点は①大津波の襲来を予見できたか②情報収集を怠っていなかったか③バス出発の判断に誤りはなかったか④防災態勢は十分だったか－など。

同様の訴訟はほかに少なくとも8件が係争中。

南砺で麦屋節全国大会

夏目さん（能登町）優勝

第63回城端むぎや祭（北國・富山新聞社共催）は最終日の15日、南砺市城端伝統芸能会館じょうはな座で、麦屋節の歌い手日本一を決める「麦屋節コンクール全国大会」（同）が開かれ、一般の部で夏目栄子さん㊼＝能登町＝が栄冠を手にした。

一般の部に62人、ジュニアの部に21人が出場し、越中城端麦屋節保存会員の伴奏で「麦屋節」「麦屋節字余り」を披露した。

3回目の出場で初めて優勝した夏目さんは民謡歴30年以上のベテランで、杉山民謡会の主宰を務める。3位に入った昨年の大会で「麦屋節字余り」に魅力を感じ、1年間、城端に通うなどして特訓を続けてきた。夏目さんは「念願のタイトルを得られた。来年は教え子をたくさん出場させたい」と喜びを語った。一般の部優勝により、東京で来年開かれる日本民謡フェスティバルの出場権を得た。

麦屋節日本一に輝いた夏目さん＝南砺市城端伝統芸能会館じょうはな座

文枝さんら浄瑠璃に挑戦

「繁昌亭」7周年記念

開場7周年を迎えた大阪の落語定席「天満天神繁昌亭」（同市北区）で15日、記念公演が開かれ、上方落語協会の桂文枝会長＝写真左＝、笑福亭鶴瓶副会長＝同右＝らが浄瑠璃に挑戦した。真剣そのものの熱演がかえって笑いを呼び、満場の喝采を浴びた。

文枝さんら8人の落語家が語ったのは、お家を守るためにわが子を犠牲にする乳母政岡が主人公の「伽羅先代萩」の名場面。文楽太夫の豊竹咲大夫さんから指導を受け、そろいの裃を着て舞台に並んだ。前半を語った鶴瓶さんが、文枝さんが演じる後半に割り込む場面もあった。

事件事故

■顔殴った容疑で男逮捕　金沢中署は15日までに、傷害の疑いで、金沢市泉が丘1丁目、無職青山隆容疑者(62)を現行犯逮捕した。逮捕容疑は14日午後10時ごろ、金沢市米泉町5丁目の路上で、同市の自営業男性㉝の顔を殴り、頭突きするなどして軽傷を負わせた疑い。

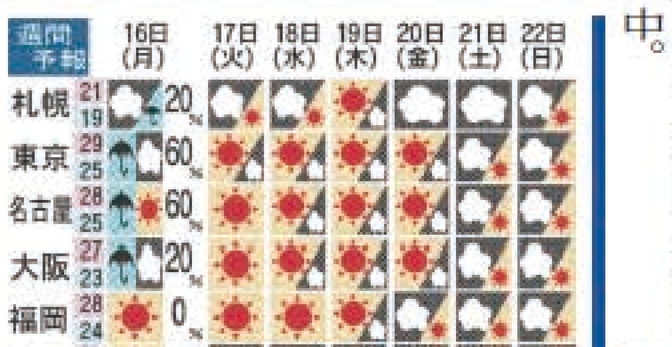
同署によると、帰宅中の男性が、酔って歩道に寝ていた青山容疑者を見つけた。声を掛け、110番通報したところ、殴られたという。同容疑者は「殴っていない」と否認している。

各地の気温

15日

	最高	（平年）	最低	（平年）	湿度	
金沢	27.3	（26.7）	22.3	（19.7）	85	俄雨
輪島	25.4	（25.8）	23.8	（18.0）	82	曇
富山	27.4	（26.6）	23.7	（18.9）	84	俄雨
高岡	27.4	（26.3）	23.6	（19.3）	80	雨
福井	26.8	（27.3）	21.5	（19.3）	84	俄雨
札幌	24.3	（22.5）	20.5	（14.3）	87	雨
仙台	25.4	（24.3）	23.3	（17.7）	93	俄雨
東京	28.0	（27.3）	23.5	（21.2）	83	曇
新潟	27.3	（26.2）	26.2	（19.4）	78	曇
長野	26.4	（25.7）	22.3	（17.2）	67	曇
名古屋	31.1	（28.8）	23.8	（20.9）	69	曇
京都	27.9	（29.0）	22.5	（20.5）	88	俄雨
大阪	27.5	（29.5）	22.9	（21.8）	92	俄雨
広島	28.2	（29.1）	25.8	（21.0）	58	俄雨
高知	26.4	（29.4）	22.3	（21.2）	87	俄雨
福岡	29.7	（28.5）	25.9	（21.4）	75	曇
鹿児島	34.1	（30.3）	26.1	（23.0）	48	曇
那覇	31.1	（30.5）	27.7	（25.6）	70	晴

最高気温（0時～15時）、最低気温（21時～9時）と、15時の湿度・天気



降水確率は12－18時

あすのこよみ

八白・友引
旧暦8月13日
月齢11.6

	金沢			輪島
日出	5:37	満潮	1:06	1:20
日入	17:58		12:00	12:04
月出	16:21	干潮	6:14	6:18
月入	2:51		19:30	19:36

北國新聞創刊120周年記念

好評開催中

まき子夫人の結婚式衣装を半世紀ぶり公開

裕次郎 小樽記念館
昭和の太陽 石原裕次郎展
～日本人が最も愛した男～
全国初の企画展

石原裕次郎さんは生前、山中節をこよなく愛していました。その縁で昨年、「石原裕次郎映画祭in山中温泉」が開かれ、金沢での「石原裕次郎展」の実現につながりました。
香林坊大和会場では、1960年12月の結婚式で、まき子夫人が着用した打ち掛け、振り袖を半世紀ぶりに公開しています。北國新聞交流ホール会場では、初公開となる裕次郎さんからまき子さんへのラブレターをはじめ、贈り物の時計、香水セット、秘蔵写真を展示しています。

9月24日㈫まで

スター裕次郎の私生活を公開
香林坊大和8階ホール
●10:00～19:00（最終日は18:00まで）

俳優裕次郎の軌跡のすべて
北國新聞交流ホール
●10:00～19:00
北國新聞赤羽ホール1階

2会場共通入場券（税込み）
［大人］1000円 ［小人（中学生まで）］500円

オスロからまき子さんに送ったラブレター
●北國新聞交流ホール会場で展示

裕次郎さんが愛用した化粧品
●香林坊大和会場で展示

長嶋茂雄さんが裕次郎さんに贈った「幻のホームラン」のバット、サインボールと、裕次郎さんの入院時に、ガッツ石松さんが全快を願って贈ったボクシンググローブ ●香林坊大和会場で展示

■主催／香林坊ルネッサンス実行委員会、北國新聞社■特別協力／石原プロモーション
［お問い合わせ］北國新聞社営業局ネット企画部「石原裕次郎係」TEL076（260）3454（平日10時～18時）
香林坊ルネッサンス

同時開催 入場無料
北海道・北陸銀行 連携協定締結記念
小樽物産展
香林坊大和8階ホール
［前期］9月17日㈫まで
［後期］9月18日㈬～24日㈫
●最終日は18時まで
主催／香林坊大和 共催／北陸銀行 後援／北海道・小樽市・小樽物産協会